

由比町

地形概況

由比川にそう谷底低地は段丘や扇状地性緩斜面も広く、入山断層が走る。西山寺・舟場をはじめ緩斜面は滑落崖をもつ新旧さまざまの地すべり地で、寺尾・倉沢は海食崖の急斜面が崩落した。庵原山地が薩捶峠で駿河湾に面している。

地質概況

入山断層以西には浜石岳層群が分布し、礫岩と火砕岩が砂岩と泥岩をはさんでいる。東部は鷺の田礫層や高位段丘礫層からなる丘陵や砂礫台地、岩渕火山の安山岩類の山地に移行する。地すべり性崩壊の多発地域で、崩壊堆積物の分布地域も広い。

気象概況

年平均気温は推定 15.8℃、推定年降水量が 2,450mm。典型的な表日本型の気候で、冬季は温暖で穏やかな晴天の日が続く。降雨は県内の平均であり、梅雨から夏季(4月から8月)に全降水量の約 50%が降る。年最多風向は北で約 3m の風が吹く。

災害事例 地震

- 1854年12月23日(安政元年)安政東海地震 M=8.4
全県下に被害を及ぼした大地震で、由比では家屋のつぶれたものが多かったが、特に宿の東のはずれに倒れ家が多かった。また山崩れも多かった。松ヶ下・追平・離れ山・青篠山ではゆれ崩れで死者3人を出した。また5尺ほど隆起して、浜辺25間ほど砂浜として残った。大沢川の水が濁り量が多くなった。震度は由比・寺尾で5、倉沢で4であった。
- 1707年10月28日(宝永4年)宝永地震 M=8.4
全県下に被害を及ぼした大地震で、当地でも過半数が潰家となる。宿役人の家240戸のうち、半壊83戸、大破157戸といわれている。震度は5~6であった。

災害事例 津波

- 1854年12月23日(安政元年)安政東海地震津波
静岡県沿岸各地は大津波に襲われた。当地では古記録によると地震直後に津波がおそい、1.5町も潮が引いた。津波の高さは2m程度であった。

災害事例 台風

- 1858年8月2日(安政5年)
13日前から雨が降り続いていたが、当日は特に大雨で、山崩れ・橋流出が多数生じた。寺尾大沢川西端では2戸流失し、西倉沢宝積寺本堂庫裡は山崩れで埋没、百姓家17戸全壊、16戸半壊の被害があった。

災害事例 豪雨

- 1941年7月12日(昭和16年)
県下全般に大雨で由比町寺尾山が崩壊した。6人死亡、負傷者多数が出た。